むくどり通信

2020. March
No. 262
3
日本野鳥の会大阪支部

特 集
都市で暮らすハヤブサの生態を追って

特集　都市で暮らすハヤブサの生態を追って

2004 年にきららタウン泉大津のホテルのベランダでハヤブサの営巣・繁殖が確認されてから早くも 16 年目を迎えました。街中でのハヤブサの子育てを見守ろうと日本野鳥の会大阪支部の有志とホテルの関係者などが中心となって「泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部」を立ち上げ、2006 年から見守り活動や観察を続けてきました。

巣を見守るために設置した固定カメラを通じて、産卵から孵化、ヒナの成長、巣立ちの様子やハヤブサのペアの世代交代などが観察されました。今回は 15 年にも及ぶ観察記録を振り返って都市で暮らすハヤブサたちの生態に迫ります。

表紙の鳥　ハヤブサ　泉大津市　2019.6.5

ハヤブサの幼鳥たちは巣立って数日を経過すると、飛び方も随分上手になってきます。飛行訓練は親から見守られながらや、幼鳥同士でじゃれ合いながら行われたりします。

「餌の空中での受け渡し」は幼鳥たちが生きていくうえで最も大切な能力のひとつです。写真はメス親の「そら」が幼鳥に食べ物を空中で渡しているところです。　　写真　帋間実千男

泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部のホームページ（http://www.ne.jp/asahi/hayabusa/izumiotsu/）では、これまでのハヤブサの観察記録を多数の画像とともに紹介しています。
また、「子育て見守りカメラ」のライブ映像をリアルタイムで配信しています。ぜひ、ご覧ください。

CONTENTS　　2020. 3　No262

2　特集　都市で暮らすハヤブサの生態を追って
14　小山慎司の日本列島鳥見旅
16　身近な鳥から鳥類学
　第 51 回　チョウゲンボウ全国制覇への道
17　鳥ガールのぐぜり
18　例会報告 / 室内例会報告
21　そんぐポスト / お年玉クイズの答え
22　研究ダイアリー
23　鳥信　こんな鳥観たよ　オオハム、ヘラサギ、
　ニシセグロカモメ、レンジャク情報 他
26　幹事会報告 / 特別緑地保全地区の計画決定にあたって
27　次号予告 / 編集後記
28　イベント情報

泉大津のハヤブサ　～2014年から2019年の観察記録～

泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部

■繁殖するハヤブサを初めて確認

2004年5月9日の毎日新聞の記事でハヤブサが泉大津市のホテルで繁殖していることを初めて知りました。ホテル(当時の名前はサンルート関空:1996年竣工)の18階のベランダの一角のドバトの繁殖によって堆積した糞の山を利用しての繁殖でした。

その年に確認されたヒナ2羽は無事に巣立っていきました。のちにメスの親を「なぎさ」、オスの親を「きらら」と命名、ホテルの従業員や近隣の住民、日本野鳥の会大阪支部のメンバーによる観察がはじまりました。

■メス親なぎさの失踪

2005年（平成17年）：なぎさ（♀）・きらら（♂）

なぎさときららのペアは卵を4個産みましたが、メスのなぎさに何らかのトラブルが発生したのか、途中で抱卵を放棄してしまいました。メスのなぎさはおそらく、巣外で事故にあったと思われます。

そののち、別のメスがやって来てペアを形成しましたが、その年は繁殖しませんでした。

■2代目メスいずみときららによる繁殖

2006年（平成18年）：いずみ（♀）・きらら（♂）

「泉大津ハヤブササポート倶楽部」を結成し、ハヤブサの繁殖期に当たる2月から6月にかけて観察会を実施、観察と保護啓発活動を開始しました。

2月1日にはハヤブサの巣のあるホテルのベランダにリモートカメラを設置し、インターネットを通じて送られてくる画像を見ながら、観察を開始しました。また、泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部のホームページを公開し、巣の中の状況をリアルタイムに観察できるようにしました。

この年は3月11日には2個、3月15日には4個目の卵が確認されました。4月16日には2羽のヒナが誕生、4月18日は4羽目のヒナが誕生しました。

４羽のヒナは揃って順調に成長し5月25日、26日に1羽ずつベランダから巣立っていきました。5月29日には1羽のヒナが隣の工場敷地内降り立ち、工場で働く人に救出されるという事件がありましたが、幸い怪我もなく無事に巣のあるベランダに戻されることになりました。

これを契機に、巣立ち時期の見守り活動の強化を図るようになりました。通常野鳥のヒナは拾わないが基本ですが、ここでは例外的に地上に落ちた幼鳥を拾って、巣のあるベランダに返しています。

残念ながら4羽の内1羽は巣立った直後に行方不明となりましたが、残された3羽のヒナたちはホテルの周辺で活発に動き回り、ホテルのロゴマークの上に

2004年に撮影されたペア。左：なぎさ♀、右：きらら♂

2006年に巣立った幼鳥たち

2007年のペア　左：いずみ♀、右：きらら♂　いずみは、「ハヤブサひげ」と言われる頬のパッチが非常に太く黒い頭巾をかぶったように見えたことから、雌雄の判別は容易だった

2007年生まれたヒナたちと幼鳥

3 羽が並んで留まる様子も観察されました。

この年、11 月には大阪支部が「泉大津ハヤブサ・レポート２００６」を発行。あわせて福井県からハヤブサ研究者である松村俊幸氏を招き「ハヤブサ保護シンポジウム」を大阪支部と共催しました。

2007 年（平成 19 年）：いずみ（♀）・きらら（♂）

1 月 20 日､ハヤブサの繁殖用の巣皿を設置しました。これまで、ハヤブサはベランダに積みあがったハトのフンの山を巣として利用していましたが、そのまま放置することに問題があるため、ホテルの了解を得て、ハトのフンを取り除き、代わりに、巣皿（ペット用のトイレのトレー）を用意し、巣皿の内側にハヤブサが止まりやすいように岩をモルタルセメントで固定し、巣皿の中に小石を敷き、表面には砂を入れました。

巣の様子が大きく変わりましたが、ハヤブサは新しい巣皿と止まり用の岩を気に入ってくれたようです。2 個の卵を産みヒナ 2 羽が孵化しましたが、巣立ち直後に 1 羽が事故死。1 羽が無事に巣立ちました。

2008 年（平成 20 年）：いずみ（♀）・きらら（♂）

ハヤブサ４羽が無事に巣立ちました。５回目の子育て挑戦のうち最もスムーズに子育てができたのではないかと思います。４羽の幼鳥たちが、きららタウン内だけでなくフェニックス埋立地や駅前のタワーマンションの屋上などで見られる期間があり、多くの方がその様子を観察されました。

きららタウンでの幼鳥の最終確認日は 7 月 11 日でしたが、いずみときららは、ほぼ毎日巣のあるベランダに現れていました。

■いずみの負傷と 3 代目メスそらの登場

2009 年（平成 21 年）：いずみ（♀）・きらら（♂）
⇒そら（♀）・きらら（♂）

波乱万丈の 1 年でした。いずみときららのペアによる子育てが順調に始りました。４個の卵を温め始めて 14 日目にいずみが負傷。大阪府の担当部署に連絡し、いずみと抱卵中の卵４個を保護しました。保護された 4 個の卵は篤志家の人工ふ化で 2 羽のヒナが誕生、そののち研究施設で育てられて放鳥されました。いずみについても保護されたのち、動物病院で療養生活を過ごしました。

いずみが居なくなったのちに現れたＮ子（♀）ときららはペアリングが形成されず、その後現れた”そら（♀）”とペアが形成されました。

前年と比べると約１ヶ月遅れで再スタートしたきららタウンでの子育でしたが、3 個の卵が無事に孵化し巣立ちました。そのうち 1 羽は巣立ちに直後にセンタービルの窓ガラスに激突、墜落して死亡しましたが、他の 2 羽はのちに近くのフェニックス埋立地で狩りをしているところが確認されました。

泉大津ハヤブサ・レポート 2006（A4、45 頁）2006 年 11 月発行
大阪支部のホームページおよび泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部のホームページで、全文をご覧いただけます。

2008 年生まれのヒナたちに餌を与えるいずみ♀。

2009 年途中からの新たなペア　左：そら♀、右：きらら♂

2009 年 5 月　孵化後まもないヒナと新しいペア（奥そら、手前きらら）

2010 年（平成 22 年）：そら（♀）・きらら（♂）

3 月 8 日に第１卵を産卵。そらときららで交代で抱卵し、4 月 16 日、17 日で、３羽のヒナが誕生しました。ヒナたちはすくすく成長し、5 月 28 日に 2 羽、29 日に残りの 1 羽が巣立ちしました。最初に巣立ちした 1 羽は残念ながら 30 日から行方不明になってしまいましたが、あとの 2 羽は、そらときららから飛翔や餌の受け渡しなどの訓練を受けながら元気に成長しました。

その後９月 9 日、巣立ち直後に行方不明になっていた幼鳥と思われる１羽も、他の１羽と一緒にいるところが近くのフェニックス埋立地で観察されました。

2011 年（平成 23 年）：そら（♀）・きらら（♂）

3 年前年から見られるようになったベランダの手すりの上での交尾はこの年は更に多く観察されるようになりました。その様子は概ねパターンが決まっていて、2 羽で巣にやってきてそらは手すりに留り「ホェーホェー」と聞こえる声で鳴き、きららが巣の中からそらを見つめる姿勢が長く続き、ある一瞬きららが巣を飛び出しそらの背面を旋回して交尾に入るというものでした。この行動パターンから、あとの交尾を予測して固定カメラを操作し、確実に交尾の様子をとらえることができました（ホームページの観察日記には多数の交尾写真を掲載）。

3 月 6 日に第一卵を産卵。13 日には第 4 卵目を産卵しました。前年より 2 日早いペースで抱卵が始まりました。そらがほぼ独占的に抱卵し、4 月 13 日に 2 個、14 日、15 日にそれぞれ１個が孵り、4 羽のヒナが誕生しました。巣の中でひしめき合いながらヒナたちはすくすく成長し、5 月 22 日に 3 羽の幼鳥が、24 日には最後の１羽の幼鳥が巣立ちました。6 月 1 日には１羽の幼長が高速道路に落ちて死亡、6 月 2 日にはきららが翼を負傷して一時はどうなることかと心配しましたが、幸い傷は浅く 6 月 5 日は無事が確認されました。

そらの訓練を受けて、ようやくひとり立ちできるようになった若ハヤブサ 3 羽が見えない範囲まで飛んでいくようになりました。7 月になると、そらときららの平穏な日々が戻ってきたようです。

この年は、ＮＨＫの人気番組「生き物新伝説ダーウィンが来た」の番組制作班が 2 月から 6 月までの間に、合計約 6 週間の取材にあたられました。ホテルベランダへの専用の高画質カメラの設置から始まり、きららセンタービル屋上からの撮影、阪神高速道路泉大津パーキングからの撮影、マンション付近からの撮影、ゴルフ練習場付近での撮影、フェニックス埋立地での撮影など、泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部として応援体制を取って協力してきました。

取材された映像は 11 月に放映されきららタウン泉大津のハヤブサ一家が一躍全国に知られることとなりました。

2008 年に巣立った幼鳥（４羽）

2009 年に巣立った幼鳥（3 羽のうち 2 羽）

2010 年に巣立った幼鳥（3 羽）

2011 年に巣立った幼鳥（4 羽）※うち 1 羽が巣立ち直後に事故死

2012 年に巣立った幼鳥たち（４羽のうち 3 羽）

2012 年（平成 24 年）：そら（♀）・きらら（♂）

3 月 11 日、第 1 卵を産卵。12 日、14 日、16 日と順調に産卵をして、前年同様 4 卵が揃いました。抱卵は順調に進み、4 月 17 日に３羽、翌 18 日に 1 羽、4 羽のヒナが無事に誕生しました。5 月 25 日には１羽の幼鳥が巣のあるベランダから巣立ちました、5 月 27 日には残りの３羽も巣のあるベランダから巣立ちました。6 月末現在、前年のような事故もなく、4 羽の幼鳥たちは元気でした。

2013 年（平成 25 年）：そら（♀）・きらら（♂）

3 月 5 日に産卵を開始し、順調に 4 卵を産卵していましたが、抱卵を開始してから 6 月 19 日で 100 日になりました。卵が死んでいること、これから暑さが厳しくなり、そらときららが抱卵を継続することにより衰弱することも想定されることから、環境省の担当部署に連絡し、卵を取り除きました(2013.6.21)。残念ながら、この年の子育ては失敗となりました。

2014 年（平成 26 年）：そら（♀）・きらら（♂）

2 月 7 日交尾が初めて確認されました。3 月 11 日、13 日、16 日、18 日と産卵。4 月 17 日、18 日で 3 羽が誕生。第 4 羽目は遅れて 4 月 24 日に誕生しましたが同 26 日に死亡。5 月 27 日、28 日で 3 羽が無事に巣立ちました。

2015 年（平成 27 年）：そら（♀）・きらら（♂）

1 月 22 日の交尾確認。3 月 3 日から 10 日にかけて 4 個の産卵を確認しました。4 月 10 日、11 日、12 日と順調に孵化し、4 羽そろって成長しました。5 月 20 日から 22 日にかけて巣立ちを確認。そのうちの 1 羽が巣立ったその日に高速道路上で車に轢かれて死亡。残りの 3 羽の幼鳥はそらときららから訓練を受けながら逞しく成長し、7 月初旬頃まで近辺で観察されました。

■初代オスきららの失踪・きららⅡの登場

2016 年（平成 28 年）：そら（♀）・きらら（♂）
⇒そら（♀）・きららⅡ(♂)

3 月 1 日から 9 日にかけて４卵を確認しました。抱卵 57 日目の 5 月 4 日を最後にきららが行方不明となりました。、5 月 8 日、抱卵開始から 60 日を経過しても孵化しないので、環境省の担当部署にへ連絡して卵を取り除きました。

5 月 23 日、新しいオス（きららⅡ）が見守りカメラに写り、24 日にはそらときららⅡの巣の中での挨拶行動が観察されましたが、この年の繁殖は失敗でした。

2014 年に巣立った幼鳥（3 羽）

2015 年に巣立った幼鳥（4 羽)※うち 1 羽は交通事故死

2016 年途中からの新たなペア　左：そら♀、右：きららⅡ♂

2017 年に巣立った幼鳥（2 羽)※２卵は孵化せず

2017 年に巣立った幼鳥（2 羽)※体の大きさの違いから「ちーちゃん」「えるちゃん」の名前で親しまれた

2017 年（平成 29 年）：そら（♀）・きららⅡ（♂）

1 月 8 日、今季初めての「メスへの餌渡し」が観察されて、順調にペアが形成されました。3 月 8 日にそらが第１卵、11 日に第２卵、13 日に第３卵、15 日に第４卵を産みました。

4 月 15 日、孵化したのは 2 羽でしたが、すくすくと育ち 5 月 29 日、ヒナ 2 羽とも無事に巣立しました。7 月 27 日、幼鳥がベランダに来ました！そらときららⅡにとって初めての繁殖成功です。

2018 年（平成 30 年）：そら（♀）・きららⅡ（♂）

1 月 27 日、手すり上での交尾を確認、順調に繁殖活動が始まりました。3 月 5 日、第１卵を産卵、８日、１０日に第２卵。第３卵を産卵し、抱卵を開始しました。4 月 12 日､13 日に､第 1 子､第 2 子が誕生しました。5 月 22 日に 1 羽の幼鳥、5 月 26 日にもう 1 羽の幼鳥が無事に巣立ちました。

2019 年（平成 31 年）：そら（♀）・きららⅡ（♂）

1 月 6 日、ベランダできららⅡがそらに獲物をプレゼントする様子を確認。1 月 19 日にはゴルフ練習場の支柱の上での交尾を確認。3 月 5 日に第 1 卵、7 日に第 2 卵、9 日に第 3 卵、12 日に第 4 卵を確認、抱卵を開始しました。

4 月 11 日に第 1 子、4 月 12 日に第 2 子と第 3 子の誕生を確認、14 日に第 4 子が誕生しました。5 月 23 日に２羽が巣立ち、25 日に３羽目、26 日に４羽目が巣立ちました。４羽目は高速道路本線に落ちて死亡しました。巣立ち後も幼鳥たちはセンタービル屋上、マンションの屋根の上、駅前のアルザタワー屋上、ゴルフ練習場ネットフェンス支柱、ヨドコウ工場の屋根の上など近隣のあらゆる場所で遊びながら、親から飛行訓練を受けていました。

7 月 28 日以降、きららⅡが姿を見せなくなり行方不明となりました。おそらくどこかで事故死したものと思われます。それからちょうど 4 か月後の 11 月 28 日、新しいオスのハヤブサ（きららⅢと命名）が登場しそらとの新ペア形成が確認されました。

なお、これまでハヤブサの観察会の開催場所であったきららセンタービル 11 階にある阪神高速道路の展望室がカプセルホテルに転用されたことに伴い、2019 年以降、きららタウン内の「いかりの広場」を中心とした屋外で観察会を行うことになりました。

■そら（♀）ときららⅢ（♂）による繁殖

2020 年（令和２年）：そら（♀）・きららⅢ（♂）

前年の 11 月 28 日に現れたオスのハヤブサ（きららⅢと呼ばれています。）とそらのペアの形成は順調に進んでおり、前年の 12 月中旬からは巣に中で挨拶行動が観察されるようになっています。

2019 年 交尾を重ねるそら♀ときららⅡ♂

2019 年　４卵が揃ったところを確認に来たきららⅡ。左はそら。

2019 年に巣立った幼鳥（4 羽のうち 2 羽） そら（上）に餌をねだる幼鳥

2020 年を迎えて期待される新ペア　左：そら♀ 右：きららⅢ♂

観察から見えてきたハヤブサたちの生態

阪上幸男

2006 年に巣内を常時観察できるカメラを設置しました。カメラから得られた膨大な情報から、ハヤブサの繁殖に関する生態が明らかになってきました。求愛行動から産卵、孵化育雛、巣立ちまでの様子を紹介します。

■巣の中での挨拶行動

カメラを設置して初めて観察できたのが、巣の中で頭を下げてオスとメスが鳴き交わす岩棚ディスプレイと呼ばれる行動です。オスとメスのペアが「自分たちは夫婦なんだ、この巣で卵を産んでヒナを育てよう」と相互の意志を確認し合うために行っているものだ思われます。

これまでに 4 回のペア交代が行われましたが、いずれも「巣の中での挨拶」が観察されることから始まりました。岩棚ディスプレイは概ね 1 月から 3 月にかけて見られ、抱卵の交代時（ただしオスがメスに交代するときのみで、メスからオスへの交代時はメスに追い立てられるようにオスが巣から離れる）にも観察できました。

また、6 月から 7 月頃、幼鳥たちが巣立ち、再びオスとメスのみになった時点でも観察されました。私には「今年も無事に子育てが完了したね。ご苦労様でした」とお互いを慰労しているように見えました。

2019 年 1 月 18 日、巣の中での挨拶行動

■食べ物プレゼント（求愛給餌）

オスがメスに食べ物（獲物は鳥）をプレゼントする求愛給餌行動が、1 月末から 3 月の産卵時期までよく観察されました。オスが巣に近いベランダに獲物の鳥を運んできます。　メスに渡すのはほとんどが巣の前です。「この巣の中で卵を産んでくださいね」というオスの思いが感じられる行動です。

■交尾行動

毎年 2 月に入ると交尾が観察されます。2006 年に観察を始めた頃はホテルやきららセンタービルの屋上などで交尾をするのが観察されていましたが、2009 年にきらら（♂）とそら（♀）のペアになってからは巣のある階のベランダの手すりの上で行われることが多くなり、交尾の様子がカメラに記録されることが多くなりました。

2 羽同時に巣に向かって飛んできて、メスが手すりに留まり「ホェーホェー」と聞こえる鳴き声で巣に降りたオスを誘います。オスがタイミングを計り巣の中から飛び出して一旦空中を旋回してメスの背中に乗ります。交尾のときにはオスはメスを爪で傷つけないように指を丸めています。

■産卵、産み揃え

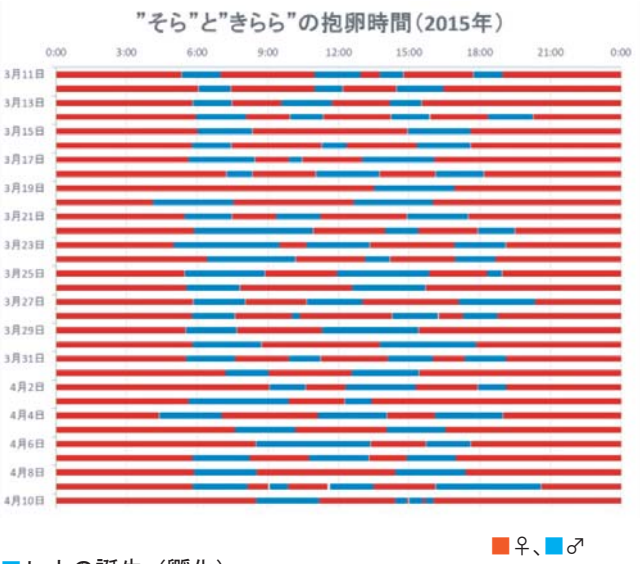
観察カメラの設置により正確な産卵日時が記録できるようになりました。初卵の産卵は早い記録で 2 月 26 日、遅い記録で 3 月 11 日（2009 年のペアが入れ替わってからの記録: 4 月 8 日初卵は除く）で、多くは 3 月初旬に始まります。泉大津での 4 ペアの記録ではほとんどが 4 卵の産卵（3 卵が 2 回、2 卵が 2 回、4 卵が 13 回）でした。

ニワトリの卵より一回り小さいクリーム色の地に赤褐色の薄い斑点の入った卵を 2 ～ 3 日（50 時間から 60 時間）おきに産卵し、3 卵目を産み終えると抱卵に入り、4 卵目からは時間を空けずに本格的な抱卵を行うようになります。

■抱卵期間、抱卵交代

抱卵は雌雄交代で行いますが、夜間の抱卵は完全にメスが独占します。しかし、きららが午前 4 時前に抱卵交代に来たり、そらが午後 9 時前まで帰ってこなかったりしたこともありました。（下図、2015 年の抱卵記録参照）

第 1 卵産卵日から孵化第 1 日目までの日数は 37 日が平均的な日数でした（9 ページの「抱卵日数の列」及び右図を参照）。



■ヒナの誕生（孵化）

4 月になるとヒナが誕生します。4 個の産卵には概ね 1 週間程度かかりますが、4 個の卵の孵化は 3 、4 日の間に完了します（8 ページ「孵化日の列」を参照）。これは 4 個の卵を産み揃えてから本格的に抱卵を開始することによってヒナの孵化の時期をそろえるという意味があるといわれています。1 番目に誕生したヒナと 4 番目に誕生したヒナとの差があまり大きくならないように行動が遺伝子に組み込まれているようです。

■ヒナの成長

綿羽につつまれたヒナの成鳥と巣立ちまで誕生してから日の浅いヒナたちは真っ白な綿羽に包ま

れています。ヒナが小さいうちは、メスがヒナを抱き続けます。

この頃は、メスが獲物をくちばしで小さくちぎってからヒナに与えます。ヒナたちが仲良く並んで食べ物をもらうう様子はとてもかわいいものです。ハヤブサは子育てがうまく、親鳥にアクシデントがない限り、「誕生したら巣立ちまではちゃんと成長する」ということが続いています。ただし、2014年の例外（12ページ「悲しくも神聖な出来事」参照）はあります。

■巣皿からの脱出・ベランダ徘徊

ヒナたちは、誕生してから 20 数日過ぎると、足取りもしっかりしてきて巣皿を飛び出すものもでてきます。ヒナたちの体がお互いに大きくなって巣が狭く感じられることや、夕方になると直射日光が巣に入り込み暑くなるため日陰を求めて移動するものと思われます。これまで真っ白だった綿羽が少しずつとれて黒褐色の羽軸が見えてきます。

誕生してから 30 日くらい経過するとヒナたちが広いベランダに繰り出してきて、地上からも観察できることがあります。まだまだ、綿羽がたっぷり残っているのにベランダを走ったり、翼を広げたりする姿は、楽しみでもあり心配でもあります。

■巣のある 18 階のベランダからの飛び出し

5 月 20 日から月末にかけて、ヒナたちの綿羽もほとんど取れてバフ色に縦縞模様の入った立派な姿になり、ベランダでの動きが活発になります。（※第 2 カメラの設置（2017 年 9 月）によりベランダの端から端まで確認可能となる。）
親たちもヒナたちから見えるところで飛翔を繰り返し「巣立ち」を促しているように見えます。

5 月末から 6 月初めにかけて、ヒナたちがベランダから飛び出し巣立ちします。巣立ち直後はなかなか高いところに上がって留まることが出来ず、近隣の工場の屋根、マンションの屋根、等の安全な場所なら良いのですが、高速道路上や、地上の地面に着地することがあります。
巣立ち後数日経過したヒナたちは、ホテルの屋上やセンタービルの屋上などに集結します。ここまで育てばひと安心。
そして、親鳥による訓練飛行が始まります。6 月末から 7 月には、親からの訓練は終了し、ヒナたちはそれぞれ旅立ち、巣のあるホテル周辺から姿を消します。

巣立ったヒナたちは、どこに行くのか、また自分で獲物を捕らえるようになって無事に冬を越せるのか・・・若いハヤブサの姿を見るたびに、私たちが巣立ちまで見守った泉大津の子たちではとの思いがよぎります。

泉大津のハヤブサ　繁殖の歴史

観察年	メス(♀)	オス(♂)	第1卵	第2卵	第3卵	第4卵	孵化日	抱卵日数(注1)	卵数	ヒナ数	巣立日(注2)	コメント
2004年	なぎさ	きらら					？？	－	2	2		1羽は高速道路に落下死亡。1羽は不明。
2005年	なぎさ	きらら						－	4	0		なぎさの事故で中断
2006年	いずみ	きらら	3.9	3.11	3.13	3.15	4.16(3),4.18(1)	38	4	4	5.25	1羽がビル衝突死亡
2007年	いずみ	きらら	3.10	3.12			4.17(2)	31	2	2	5.28	
2008年	いずみ	きらら	2.28	3.1	3.3	3.5	4.5(1),4.6(1),4.7(1),4.8(1)	37	4	4	5.16	
2009年	いずみ	きらら	2.26	2.28	3.3	3.5	4.5(1),4.7(1)	38	4	2		いずみ負傷。卵回収。人口孵化器で孵化2羽誕生
2009年の2	そら	きらら	4.8	4.10	4.13		5.13(1),5.14(1),5.16(1)	36	3	3	6.19	そら登場。1羽はビルに衝突落下で死亡、
2010年	そら	きらら	3.8	3.11	3.13	3.15	4.16(2),4.17(1)	39	4	3	5.28	
2011年	そら	きらら	3.6	3.8	3.11	3.13	4.13(2),4.14(1),4.15(1)	38	4	4	5.22	1羽が高速道路で事故死
2012年	そら	きらら	3.9	3.11	3.14	3.16	4.18(3),4.19(1)	40	4	4	5.25	
2013年	そら	きらら	3.5	3.8	3.10	3.12		－	4	0		100日経過しても孵化せず。卵を回収。
2014年	そら	きらら	3.11	3.13	3.15	3.18	4.17(1),4.18(2),4.24(1)	37	4	3	5.27	第4子孵化後3日目で死亡。
2015年	そら	きらら	3.3	3.6	3.8	3.10	4.10(2),4.11(1),4.11(1)	38	4	4	5.20	巣立ち後事故死1羽
2016年	そら	きらら	3.1	3.4	3.6	3.9		－	4	0		きらら行方不明。卵回収。きららⅡが登場。
2017年	そら	きららⅡ	3.8	3.11	3.13	3.15	4.14(2)	37	4	2	5.29	
2018年	そら	きららⅡ	3.5	3.8	3.10		4.12(1),4.13(1)	38	3	2	5.21	
2019年	そら	きららⅡ	3.5	3.7	3.9	3.12	4.11(1),4.12(2),4.14(1)	37	4	4	5.23	1羽事故死。きららⅡ行方不明。きららⅢ登場
2020年	そら	きららⅢ										
合計									62	43		

注1）抱卵日数は当年度の第1卵産卵日からの経過日数とした。平均　37日
注2）巣立ち日は当年度のヒナの内一番早くベランダから飛び出した日を巣立ち日としました。

ハヤブサを愛する仲間たちのメッセージ

「優良物件」

森川成光

1. 日当たり最高！！

実は、ここ泉大津のホテルベランダはハヤブサにとって最高の立地かもしれない。

ホテル 18 階のベランダ、余程の横風台風でない限り大切な巣が水浸しになることはない。目の前にビルがなく、西日がきついが、湿気も少なく、雑菌の心配もない。特に、長いベランダは、巣立ち前の幼鳥が飛ぶ力を付ける為の運動場としても最高である。

2. 狩場として最高！！

海岸に近く見晴らし最高、ハヤブサの視力は 100m 先の新聞を読むことが出来る？と言われている。その視力があれば、ここ泉大津には餌となる野鳥の逃げ場はない。また、近くを流れる大津川にはシギ・チドリ類が多数生息しており、格好の餌場である。

3. 子育てに最高！！

野生動物にとって、最大の目的は子育てと思われる。18 階ベランダにヘビや四つ足動物はいない。巣立ちについても、ベランダの前は 180 度オープンである。巣立ちの時最初はほとんど羽ばたき出来ずに、まるでグライダーのように滑空状態、工場やビルの屋根や屋上に不時着すれば、親は餌を運べるが、道路や地面に落ちると最悪である。

そこで、「泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部」メンバーの「出番」である。幼鳥が危険な状態になった時は保護して 18 階の巣へ戻す。今までも、何度も保護したことがある。

ただ、最大の弱点は目の前にある高速道路。そこに落ちるとどうしても助けることが出来ない。事実、今まで数羽が車の犠牲になっている・・・・・・合掌。

4. 協力的なホテルが最高！！

ホテルという客商売で野生動物などあまり歓迎されないと思うが、このホテルは巣に誰も近づけないようにしたり、当初子育ての頃巣に一番近い部屋は「ハヤブサルーム」としてリザーブしていたほどである。

ただ、ホテル側にもメリットがある。ここのハヤブサのことが新聞 4 紙に載ったり 5 局のテレビで放送されたり、NHK では 30 分の特番を組んだほどで、全国的にホテルの名前が有名になるという恩恵もあった。オーナーも喜び、ハヤブサのオブジェを泉大津市への寄付やホテルの建物ロゴにハヤブサを使用したり、非常に協力的である。

5. 強力な支援者が最高！！

泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部の活動は 10 数年前より観察と見守り、子育ての応援、見守りのための 24 時間観察できるカメラ 2 台の設置、特に巣立ちの時の大変な保護活動、3 月から 6 月までの観察会の実施、ネット上での詳細な情報発信など色々と多岐にわたります。

ハヤブサを観察できるしあわせ

藤森範子（東京都在住）

転勤族の夫とともに泉大津に来た私が初めて、ホテルに住むハヤブサのことを知ったのは新聞記事でした。野生のハヤブサがいる！私はさっそくサポートクラブの観察会に参加しました。そしてサポートクラブの HP のライブカメラやホテル周辺で彼らの子育てや普段の生活の一部を垣間見るという幸運を得たのです。

１月になるとそらちゃん（メス）にご飯のプレゼントをするきらら君（オス）。交尾、そして３月に産卵。ほぼ１日おきに産卵するので、４つ産むと最初に産む卵から最後に産む卵までほぼ１週間かかります。なのに孵化するのはほぼ同時、１，２日くらいの差しかありません。雛が同じころに生まれ、同じように育つように抱卵しているときにうまく調整しているのだと思います。

４月の上旬に生まれた雛は５月の中旬以降に巣立ちますが、親鳥はその時期が来るとしきりに雛の前を飛んで巣立ちを促します。また、その時期にはホテル周辺に飛んでくるミサゴや鵜、カラスを追い払い、雛が安全に巣立てるように心くばりも怠りません。運が良ければ、そらちゃんの飛び蹴りが見事に決まるのを見ることができます。そして勇気を振り絞って？巣立つ雛たち（巣立てば雛ではなく、幼鳥ですね）。巣立ち間もない頃はイソヒヨドリからからかわれたりすることもありますが。

巣立ち後の２日間くらい過ぎると、幼鳥はみるみる飛ぶのがうまくなります。そしてそれを待っていたかのように、親鳥による飛行訓練が始まります。飛ぶスピードも、最初は幼鳥に合わせている親鳥ですが、幼鳥の上達に伴い、突然スピードをあげての訓練もしています。意図せずにすごく上空に上がってしまった幼鳥がいましたが、両親が素早く上昇して幼鳥の前に行き、降下の仕方（多分、羽の動かし方）を見せたようです。無事に降下して安全なところに戻ってきました。ある年には、駅のそばにあるタワーマンションで、急降下と上昇を繰り返す親鳥に必死でついていく４羽の幼鳥の訓練を数日にわたって観察することもできました。親鳥は幼鳥が独り立ちをしても大丈夫なようにと、巣立ち後も一生懸命世話します。

子供たちが独り立ちした後は、そらちゃんときららくん（きららⅡくん）がお互いの労をねぎらい、子育ての成功を祝うかのように巣の中でご挨拶をします。それ以外にも、別のハヤブサかハイタカとの小競り合いがあったり、寒い冬の朝にホテルのロゴの上に２羽で太陽を全身に浴びて凛とたたずんでいる姿を見たり、「ハヤブサのテリトリーで生活している」ことに幸せを感じて過ごせた３年間でした。泉大津を離れた今は毎年巣立ちの時期にハヤブサ一家に会いに行くのが何よりの楽しみとなっています。

ハヤブサのいる風景

伊藤　章・美智子

ハヤブサの巣があるホテルから 300m の場所に総面積 47,000 ㎡で７棟の大規模マンション（15 階～20 階建）が建っている。その内の１棟の 16 階に我が家がある。我が家のベランダから見られるハヤブサの姿を報告する。

ベランダからホテルまで遮るものがなく、ハヤブサ夫妻の巣がある場所の反対側が良く見えるので毎日のように観察している。観察ポイントは、①巣階と反対側のホテルベランダとその上にあるホテル名の看板、②ホテル側面にあるロゴ上（通称：山ロゴ）、③屋上とその角、④ホテル周辺とゴルフ練習場支柱、⑤駅前高層マンション屋上、そして⑥我が家のマンション屋上角（ものすごく近い）の６カ所である。

観察ポイント①の 18 階はお気に入りで手すりにとまっていたり、ベランダでご飯を食べていることもある。ベランダの山側端にあるスリットは、ご飯の隠し場所になっていて、抱卵期や子育て中の緊急時に利用しているようである。観察ポイント①や②から急降下して狩りに行ったり、ごく稀に我が家のベランダ前を通過して思わず息を飲む。目線の高さでハヤブサを観察できた時、我が家ならではのことと得意になる。

巣立ち後の飛行訓練期に、マンション中を縦横無尽に飛び回り、迫力あるその行動を間近で披露してくれる年もある。幼鳥は屋根に留まってご飯を食べ、羽を休め、とても可愛い姿を長時間見せてくれる。大きな声で親を呼び、聞きなれないそのけたたましい鳴き声がマンション中に響きわたる。一度は、我が家のベランダに向かって幼鳥がベランダへ直進した後、目の前で急上昇したことがある。大興奮の出来事だった。

繁殖期は、本当に賑やかで楽しい観察ができる。1年中、当たり前にように我が家のベランダからハヤブサを観察しているが、よく考えてみると、おそらく稀有な状況であると思う。ハヤブサがいる風景は、我が家にとって「当たり前」になっていて、これからもずっと変わらずにいて欲しいと思う。その反面、本来の生息地である海岸や山地の断崖絶壁ではなく、市街地を住処として選択せざるをえないハヤブサの置かれた環境を憂いている複雑な思いもある。それでもずっとここにいるのは、住み心地が良いからなのだろう。

ベランダに直進してきた幼鳥　　伊藤　章

巣立ち見守り隊募集中

馬間悦子

一番最後の卵が孵化した日から数えて４５日頃に幼鳥たちは巣立ちの日を迎えます。その日が近づくと運営委員に「巣立ち見守り隊当番表」が届きます。
見守り期間は約４週間。そのうち重点見守り期間は２週間。「私が一人の日には巣立ちませんように！」と願いながら当番表に印をつけます。

重点見守り期間が近づくと、ベランダのあちらこちらでバタバタと羽ばたきの練習に余念がありません。きららとそらちゃんも夕方にいい風が吹くと、ベランダ際の幼鳥に巣立ちを促すように鳴きながら飛びます。

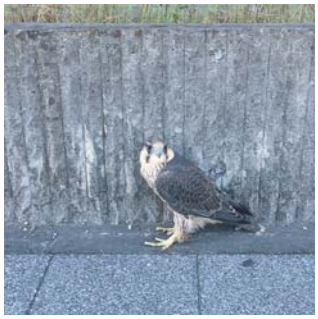
まだ巣立ちは早いのにと思われる幼鳥も同じように、飛ぼうかな？と身を乗り出し、やーめた！と引っ込むのをくりかえすのを見るたびに、見守り当番の心臓は止まりそうになります。
平和な空気が流れていて油断をしていると、足を踏み外して落ちるように巣立つ幼鳥もいたり、ベランダの縁にしっかり爪を掛けジャンプをして飛び出す幼鳥もいます。

本来の岩棚で営巣している巣の近くには、ちょっとジャンプすれば跳び移れる木があり、掴まる練習ができるのですが、このホテルのベランダからは一度飛び出すと目の前には留られる物は何もありません。
幼鳥が飛び出すと、きららかそらちゃんも飛び出して危険な方向に回り込んでエスコートします。

私たちが幼鳥を見失っても、きららかそらちゃんがじっと見つめている方向にいるはずです。

毎年５月中ごろに巣立ちます。巣立ちの見守りを助けて下さる方をお待ちしています。

今にも飛び出しそうなベランダのヒナ　　馬間悦子



左：ヨドコウ工場の屋根に降りた幼鳥、右：道路に降りた幼鳥

悲しくも神聖な出来事

須藤　薫

毎年かわいい雛の姿が楽しみな子育て見守りカメラですが、悲しい事も起こります。中でも今でも記憶にはっきり残っているのは、2014 年に 6 日遅れで生まれた４羽めの雛、チビちゃんの事。孵化した時は皆で大喜びでしたが、兄弟たちとの大きさに既にかなり差がついてしまって、親から餌を貰おうと必死に背伸びして口を開けても餌に届きません。足もしっかりしておらず、すぐに転んでしまいます。親が給餌に来るたびに、今回はチビちゃんが貰えますように！と心の中で必死に応援しましたが、チビちゃんは一口も食べられず、弱っていきました。

孵化の翌々日の夜、かたまって寝る雛たちの中、チビちゃん１羽だけがみんなから離れていて動きがありません。心配に思っていると、巣の岩の上に居たメス親のそらちゃんが、スッと巣の中に入り、チビちゃんをくわえて外に持ち出しました。そしてまるで何事もなかったかのように岩上に戻ってきました。

「やっぱり、チビちゃんはダメだったのだ…」と悲しい気持ちでいっぱいになりましたが、さらに驚いたのはその翌日でした。

そらちゃんがチビちゃんの遺体を巣に再び持ち込んで、雛たちに給餌し始めたのです。ショッキングな出来事でしたが、丁寧に小さく千切って雛たちの口に運んでいる姿をしばらく見つめていると、何か神聖な儀式をみているような気持ちにもなりました。チビちゃんは死んでしまったけれど、こうやって兄弟たちの血肉になって、いのちは引き継がれていくのだな、と。

お気に入りだったホテルロゴマーク

阪上幸男

ハヤブサ一家が選んだホテルのベランダは巣を設置するために最適の場所でしたが、ハヤブサたちの寛ぎの場所としてホテルのロゴマークがあります。以前は上辺が水平で下面がＵ字型をしたマーク（いわゆる「ホテルサンルート」のマーク）でした。2015 年ホテルオーナーの意向でハヤブサをモチーフとした六角形のロゴマークになりました。

上面が水平のロゴマークの上では数々の名シーンが観察されました。きらら（♂）とそら（♀）は良く並んで留まっていましたが、ハヤブサの場合ハトやメジロのように体を接して留まることはなく、いつも適度な距離を保っていました。その適度な距離を保つのがロゴマークの「幅」でした。まさに、寛ぎのツーショットでした。また、このロゴマークの裏には 15 ㎝位の水平な隠れ場所もありましたので、そこ餌の隠し場所としても使用していたようです。

ハヤブサたちのくつろぎの場、左：そらときらら、右：幼鳥たち

また、巣立った幼鳥たちも親の真似をしてこのロゴによく留まりました。2006 年には 3 羽の幼鳥が同時に留まるというハヤブサファンには堪らない情景も観察することができました。

しかし、現在ではそのような情景を観察することは出来ません。120 度の山形の頂点に 1 羽で留まることはありますが 2 羽で並ぶことは不可能です。新しく来たきららⅡはもっぱら「ホテルの文字ロゴ」のアルファベットの上辺をお気に入りにしているようです。

新しいロゴマークに留まる、左も右もきららⅡ

カメラの増設

阪上幸男

これまで巣立ち見守りカメラは巣の傍の壁に取り付けてあり巣の中で育つヒナたちの様子は良く見ることが出来ましたが、巣皿を出てベランダを駆けまわったりベランダの縁から飛び出す様子などは見ることが出来ませんでした。2017 年 9 月、ホテルのご理解と支援、勿論会員の皆様の支援を得てベランダ全体を見通せる第二のカメラを設置しました。

第２カメラに映し出されたベランダの幼鳥たち。

ベランダの幼鳥たちを見守るそら（♀親）

このカメラはベランダの天井部分に取り付けてありこれまで巣内カメラの視界に入らなかった場所を観察することができます。親たちがベランダの手すりに留まると第二のカメラが間近になり、これまで見ることができなかった表情などがよく見えたり、巣立ち前のヒナたちが長いベランダに散らばったり、あるいは固まって下界の様子を見まわしている情景が見れるようになりました。また、何より頼りになるのは録画プログラムで記録された動画を再生することで、いままで見ることのできなかったベランダからの巣立ちの瞬間が確認できることです。

『ダーウィンが来た！生きもの新伝説』取材裏話

須藤　薫

NHK の「ダーウィンが来た！」で放送された「ハヤブサ一家　高層ホテルがマイホーム」の番組取材の裏話を泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部のホームページ「やませみねこさんの観察日記」の記録から振り返ってみます。

■【2011 年 9 月 4 日】

「そらちゃんときららくんの今年の子育ての様子が、NHK の人気番組『ダーウィンが来た！生きもの新伝説』で放送されます。」初めて、このお話が来たのは 2010 年の 9 月末でした。その時は、まだディレクターの北さん個人の発想でした。やっと年末に、めでたく番組制作の GO サインが出ましたということで、そらちゃん&きららくんをいつも応援して HP や観察日記を見て下さっている皆さまには、もっと早くお知らせしたかったのですが、公表することができませんでした。とても嬉しいお話だったので、大切に大切に事を進めて行きました。

お陰さまで 2011 年初めから約半年間の撮影も 6 月末に無事終了し、巣の近くに設置されたダーウィン・カメラも、8 月末にディレクターさんが来阪されて巣の清掃と同時に取り外され、その際、番組の編集作業も概ね終了と伺いました。

■【2011 年 9 月 4 日】　その 2

さかのぼること 2009 年 10 月、タカの渡りを見に徳島・鳴門山へ行きました。そこで、渡りのカウントをされている日本野鳥の会・徳島支部の方に、きららタウンのハヤブサたちの話をしました。私の話を聞いて、「へぇ、面白いね。ほら、あの、”ダーウィンが来た”から、そのうち取材が来たりして（笑）」と、思いもしない言葉をいただきました。

その時の会話は私の頭の中にずっと残っていました。ですから NHK さんから初めてお話を頂いた時、驚いたと同時に何か不思議な縁のようなものを感じて、きっとこの話は実現する～！と思ったのでした。

■【2011 年 10 月 9 日】

2011 年の 1 月にいよいよ「ダーウィンが来た！」撮影用のカメラが巣の近くに取り付けられました。ハヤブサたちに見られてしまうと数日警戒されてしまいますので、今回この NHK のカメラの取り付け工事は 1 月 19 日の夜間に行うことにしました。気になっていたのは、翌日のハヤブサたちの反応でした。ところが、私たちの心配をよそに全くと言っていいほど気にしませんでした。やっぱり「ハヤブサたちに私たち人間の姿を見られない」ということは、とても重要な事なんですね。異物（カメラ）が巣の近くに増えたのに、それには関心なさそうで、本当にホッとしました。

ダーウィンが来た！の撮影隊、左：センタービル屋上、右：PA3 階

■【2011 年 10 月 10 日】

「ダーウィンが来た！」のタイトルを、足立ディレクターからおききしました。

実は撮影開始前に急遽、北ディレクターが別の番組制作に関わられる事になり、”足立ディレクター”が担当されることになりました。足立さんは鳥にとても詳しい方で、NHK で鳥と言えば足立さんの名が挙がるそうです。（北ディレクターのお話。）さすがに、きららたちの姿を捉えるのがすごく早い、きららくんとそらちゃんの見分けをマスターされるのも早い、その足立さん指揮のもと、きららとそらちゃんの撮影が開始されたのでした。

■【2011 年 10 月 10 日】その 2

皆さま、「ダーウィン NEWS」は、ご覧になりましたか。ついに、きららくんとそらちゃんが「ダーウィン・テレビ」に登場しましたね。

今回、撮影カメラマンさんは、おふたり。メインは笠井カメラマン、それから大変な巣立ち時期には塚越カメラマンも加わられました。撮影された映像、すごいですね。感動しました。特に狩りのシーンは、いつも現場にいても、ハヤブサが獲物を追っているシーンに出会えても、捕まえた瞬間は見れなかったりすることが多いのですが、ダーウィンカメラでは、マンション前での狩りの決定的瞬間がとらえられていましたね。ちなみに笠井カメラマンは、「ダーウィンが来た！」の前年の 9 月に放送されたイタリアのヒメチョウゲンボウのお話「世界遺産の街から羽ばたけ！」で撮影を担当された方です。ヒメチョウゲンボウの時と違って、今回はハヤブサならどれでもいいわけではなく、「きらら」「そら」が狩りをするところを撮らないといけないのが大変だったとの事でしたが、今回の予告映像を見て、想像以上に素晴らしく、大感激です。

■【2011 年 11 月 20 日】

遂に本日「ダーウィンが来た！」で放送されましたね。私たちサポート倶楽部のメンバーも見たことがないようなシーンがたくさんあり感激しました。みなさまはいかがでしたか？

2020 年ハヤブサ観察会のご案内　泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部主催

2019 年 11 月 28 日に登場したきららⅢくんとそらちゃんの子育てが無事に成功するように祈りながら、観察会を開催します。　雨天中止（前日にホームページでお知らせします。）

開催日　①3 月 8 日（日）、②4 月 12 日（日）、③5 月 3 日（日）、④5 月 17 日（日）、⑤6 月 7 日（日）

会　場　きららタウン内いかりの広場　　開催時間 9 時 30 分から 11 時 30 分まで

バス時刻　泉大津駅 ⇒ ホテル玄関　8:00　8:30　9:00　　ホテル玄関 ⇒ 泉大津駅　11:20　11:40　12:40